

単元名

まとまりのある文章を書こう
「町の「すてき」をつたえます」

第2学年

1 単元の目標

- (1) 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解できる。[知識及び技能] (2)ア
- (2) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れる。[知識及び技能] (1)キ
- (3) 「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。[思考力，判断力，表現力等] B(1)イ
- (4) 粘り強く，事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，学習課題に沿って報告文を書くことができる。[学びに向かう力，人間性等]

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア ② 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ	① 「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	① 粘り強く，事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，学習課題に沿って報告文を書こうとしている。

3 指導と評価の計画（全11時間）

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の学習を想起し，見付けたことや分かったことを交流する。 ・ 読み手を設定する。 	①（メモ）		①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書きたいことを伝えるために必要なこ 	①（メモ）		①

○ B子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
・生活科の学習と関連させ，経験したことから題材を見付ける。


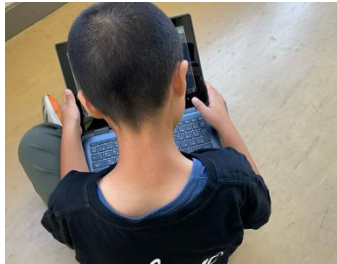

	<ul style="list-style-type: none"> とをメモに整理する。 ・ 観点別のマークを入れ, 観点到偏りが無いようにメモを書く。 ・ 抜き出したメモをもとに, 書きたい題材を決める。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ A 子どもが「自分たちで学び取る」授業 ・ 書きたい題材を思い浮かべる際に, 動画やインタビューメモ等を参照する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書きたい題材を伝えるために必要なメモを選ぶ。 ・ ペアでメモを読み合いながら, 内容を確認めたり, 互いの考えに触れて新たな気付きを得たりする中で, 必要に応じてメモを追加したり内容を深めたりする。 		① (組み立て表, メモ)	①
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「始め・中・終わり」に何を書かかを考えて, 組み立て表を作る。 		① (組み立て表)	①
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組み立て表の内容が, 自分の思いや考えが明確になるような構成になっているかを検討する。 ・ 検討したことをもとに, 組み立て表を修正する。 		① (組み立て表)	①
	<ul style="list-style-type: none"> ○ A 子どもが「自分たちで学び取る」授業 ・ 「録音ブース」「友達相談ブース」「先生とお話ブース」などを設け, 環境を工夫することで, 子どもたちが自分に合った学び方を主体的に選べるようにする。 			
6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組み立て表をもとに, 文章を書く。 	① (作文)		①
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書き終えたら間違いがないか読み返す。 ・ 推敲のポイントをもとに, 友達と読み合ってチェックする。 	② (チェックリスト)		①
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書いた文章を読み合い, よいところを伝え合う。 		① (交流メモ)	①
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手の感想を踏まえて「どこがうまく書けたか」「次に生かしたいこと」などを振り返る。 	① (振り返り)		①

4 本時案 (5/11)

(1) 本時の目標

- 自分の思いや考えが明確になるように、構成を検討する。

(2) 本時の展開

時	○学習活動 ・子どもの反応	◇留意点 ☆評価
導入	<p>○ 学びの地図を参照し、今日の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※本時の課題: 伝わる順番になっているか確かめる。</p> </div> <p>○ 「はじめ」「中」「おわり」に書く内容を振り返り、特に「中」の部分で見学した順序や出来事の流れを意識しながら、読み手に伝わる構成にできているかを確認することを伝える。</p> <p>○ 学習の目的として、第1時に設定した読み手（別の見学先に行った友達）を想起し、その友達が理解しやすいように自分の文章の構成を見直し、工夫することを伝える。</p>	<p>◇ 学びの地図に、単元全体を通して「何ができればよいのか」「この学習を通してどんな力が身に付くのか」を明示することで、子どもが主体的に学習に取り組めるようにする。</p>
展開	<p>○ 構成メモを読み返し、自分の伝えたいことが明確に表れているかを確認する。</p> <p>【想定される子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> 口頭作文を録音し、自分の声で聞き直したり、友達や教師に読んでもらったりしながら、内容を客観的に捉えようとする。 文章全体の構成（はじめ・中・おわり）が整っているかを通して読み、流れを確認する。 書いた文章と口頭での表現を比べ、どちらで自然に内容が伝わるかを確認する。 内容が分かりにくいと感じた場合には、必要に応じてメモを書き加えるなどの工夫を行う。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>↑ 見学先が違う友達にメモを読んでもらう子ども</p>	<p>◇ 教師は机間指導を行いながら、学び方の選択に迷う子どもには助言をしたり、他の子どもたちの学び方を紹介したりして共有する。</p> <p>☆思①（構成メモ） ☆主①（観察）</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>↑ 録音して口頭作文を確認する子ども</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>↑ 内容が足りないことに気づき、メモを付け足す子ども</p>

終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最終的なメモを提出する。 ○ 本時の課題を確認し、今日の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進捗状況や自分に合った学び方を振り返り、次の学習で生かす。 	☆主①（振り返り）
----	---	-----------

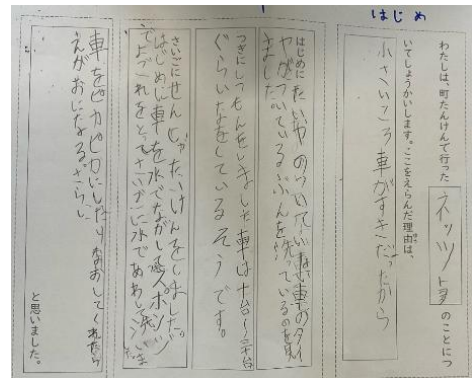
5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業改善のポイント

○ 学習の個性化を支える学びの環境づくり

本単元では、生活科での地域探検を通して得た体験をもとに、国語科で「同じ体験をしていない友達にわかりやすく伝える」ことを目標に報告文を書く活動を行った。友達に伝わるように書くためには、見学した順番や出来事のつながりを意識して構成することが大切であり、それが学ぶ意欲にもつながった。

本時のねらいは、「はじめ」「中」「おわり」に書く内容を振り返り、特に「中」の部分で見学の流れが読み手に伝わるように書いているかを確認することであった。単元を通して学ぶことの意味を確認しながら取り組むことで、子どもは自分の体験を整理し、読む人を意識して表現する力を高めることができた。また、「伝わった」「わかった」という表現したことが伝わる楽しさを味わう場面も見られた。

子どもが自分に合った学び方を選べるようにするため、教師はあらかじめ多様な学び方を想定し、必要な支援や環境を整えた。授業中にその都度ヒントを与えたり、「こうすればよい」と助言したりするだけでは、子どもが教師の指示を待つ受け身の姿勢を強めてしまう。そこで、つまずきやすい場面を想定し、その子に合った方法や支援を事前に準備した。こうした環境づくりにより、子どもは自分に合った方法を安心して選び、落ち着いて学びを進めることができた。結果として、低学年段階であっても一人ひとりが自分らしい方法を選択して学ぶ姿を多く見る事ができた。



↑型を選択した児童のワークシート

表 事前に想定したつまずきとそれに応じた手立て

想定したつまずき	用意した選択肢・支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがな・カタカナが分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがな表・カタカナ表を、いつでも手に取れる場所に設置する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 書き出しに困る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書き出しの例を複数まとめたシートを「資料箱」に入れておく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文の続きをどう書けばよいか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「先生ブース」を設け、いつでも相談・対話できるようにする。 ・ 教科書の例文を参考にする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学内容を忘れてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や動画資料を用意し、必要なときに何度でも参照できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作文用紙の使い方が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作文用紙の使い方をまとめた掲示物を壁面に貼る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「 」の使い方が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の該当ページや、それを端的にまとめた掲示物を用意する。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを書くのが苦手。 ・ 文のつながりを検討するのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メモや口頭作文をしてから書く。 ・ 録音して聞き返す。 ・ 型を用意し、メモを当てはめてかけるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で学習を進めることに不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談ブースを設け、友達や先生と対話しながら学べる場を用意する。

○ 学習の協働化を促す関係づくりと学級経営

子どもが安心して学びに向かうために、日ごろの授業の中で、互いを認め合い、意見を言い合える関係づくりを大切にしました。授業中の短いペア交流を積み重ねることで、気軽に話し合える雰囲気をつくり、そこから相談や意見交換へと発展する関係を築いた。その結果、失敗を恐れずに意見を交わす姿が増え、子どもたちは自信をもって学びに向かうようになった。こうした人間関係の形成は、学び方の選択にも大きく影響した。学び方を選ぶことに慣れない時期には教師が支援の中心にいたが、次第に子ども同士で教え合い、自然に協力しながら学ぶ姿が広がった。このような日常の関わりが、安心して学び合う基盤として機能した。

本単元でも、口頭で説明する活動、ペア交流、教師との対話など、学びを確かめる多様な方法を取り入れた。これらの活動を通して、子どもは自分の考えを確かめたり、友達の考えを聞いて考えを深めたりするようになった。学び合う過程では、「自分とは違う考えに気付く」「相手に伝わるように工夫する」といった姿も多く見られ、互いの学びを広げ合う様子が印象的であった。



↑ 学ぶ場を選んでいる様子

○ 学びの自己調整につながる省察と学び方の共有

授業の振り返りでは、子どもが自分の学びを書いてまとめるだけでなく、教師と対話しながら振り返る機会を意図的に設けた。発達段階によっては、自分の学びを十分に言葉にできなかったり、自身の成長に気付きにくかったりすることがある。そこで、教師が子どもの気付きをともに言語化し、「ここが良かったね」と価値付けることで、子どもが学びの意味や手応えを実感できるようにした。

また、ゴールにたどり着くまでにどのような学び方が役立つのかを言葉にして共有する活動を通して、「自分にとって学びやすい方法」を再発見する姿が見られた。こうした振り返りの積み重ねは、子どもが自らの学び方を見つめ直し、主体的に工夫しようとする力の育成につながったと考えられる。

さらに、タブレット端末を活用し、文章の作成や写真・録音データの整理にも取り組んだ。ICTを学びの記録や振り返りの道具として用いることで、子どもは自分のペースで学びを振り返り、次の学び方を考えるようになった。自分の選択が尊重されているという安心感の中で、意欲的に学びに向かう姿が見られた。



↑ 書くことを集めるために、見学時の動画を見ている子ども